

2018年 11月 子育てワンポイント

## テーマ「子どもに多い冬の感染症」

気温が低く乾燥する冬はウイルスが活発になる季節です。鼻水や咳などのいわゆる風邪症候群や嘔吐や下痢の症状の感染性胃腸炎も流行します。冬の代表的な感染症についてお知らせします。

### インフルエンザ

急な高熱、鼻水、喉の痛み咳などの呼吸器症状の他、頭痛・関節痛・筋肉痛なども伴います。子どもの場合、腹痛や嘔吐、下痢などの消化器症状が出ることも多くあります。インフルエンザ脳症、気管支炎、肺炎、心筋炎など命に関わる合併症を引き起こすことがある為注意が必要です。感染を予防するために予防接種を受けておきましょう。



### RSウイルス

2歳までにほとんどの子どもが感染すると言われていますが、乳児の場合、重症化しやすく細気管支炎や肺炎を起こすことで知られています。

### 溶連菌感染症

高熱、喉の痛み、筋肉痛やリンパ節の腫れ、頭痛などの症状があり、リウマチ熱や腎炎という合併症を引き起こすことがあるため、処方された抗生剤を指示どおりに飲むようにしてください。



### 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎ではノロウイルス、ロタウイルスが代表的です。激しい嘔吐が突然現れ、下痢、発熱といった症状が続きます。脱水症状が起こりやすいので水分補給をこまめに行いましょう。感染力が強いため、嘔吐物や下痢便の取り扱いに注意し、適切に行ってください。ロタウイルスの場合、白色の下痢が特徴で乳幼児に多く見られます。予防接種がありますので受けるようにしましょう。

いずれの感染症も予防はまずは手洗いです。正しい手洗いの方法を大人が身に付け、子どもたちに伝えていきましょう。

